

学校関係者評価報告書

愛媛県立大洲高等学校

学校番号(30)

評価実施日		令和5年1月19日(木)		
委員	氏名	所属等	氏名	所属等
	松田 智子	学校評議員	二宮 務	学校評議員
	中川 義博	学校評議員	古野 誉	PTA顧問
	濱田 耕造	学校評議員	藤本 治	土地家屋調査士
	井上 幸恵	学校評議員	中岡 靖典	学校関係者
第三者評価委員		作田 良三(松山大学経営学部教授)		

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 全般</p> <p>学校評価アンケートは、令和元(2019)年度以降の4年間で比較した際、教職員調査において最も肯定的な評価となっている。生徒調査と保護者調査では、例年にない高評価であった年度(生徒：2020年度、保護者：2019年度)には及ばないものの、概ね平均値以上であった。校長先生をはじめ教職員の方々のご尽力の賜物と、敬意を表したい。ただし、全体的な懸念点としては、生徒の評価と教職員の評価の間で、相反する項目がいくらか見られる点がある。</p> <p>2 学習指導について</p> <p>学校評価アンケートの前年度との比較では生徒アンケート、保護者アンケート共にほぼ横ばい状態であった。しかし、2019年度比では、例えば「授業の進度の適切性」については、生徒、保護者共に10%以上の落ち込みが見られ、4年間の平均値と比べても5%以上低下している。学習指導に関する教職員アンケートでは、昨年度以上の肯定的評価であるにもかかわらず、生徒アンケートでは、「よく当てはまる」・「やや当てはまる」の回答者の割合が、前年度比でいずれも10%以上低下している。生徒個々の理解度の差が大きくなっていると思われるが、生徒の実感としての評価が上がるよう、グループ・ディスカッションなど、言語活動を充実させることによって、学習意欲の喚起や思考力・判断力・表現力向上などをお願いしたい。</p> <p>3 進路指導について</p> <p>進路指導では、難関国公立大学への入学者が減っている。また、教職員アンケートによると、「補習・模試等の</p>	<p>・生徒たちにとって昨年度よりも学校行事などが実現でき、前向きな学校生活を送ることができたと考えている。生徒の評価と教員の評価との間の乖離については、家庭との連絡を密にとり、生徒一人一人の状況をしっかりと把握するとともに、生徒との面接等を増やし、コミュニケーションをしっかりと行うことによって、相互の信頼関係の醸成に努めたい。</p> <p>・学習格差が大きくなってきている。生徒の実情を詳細に分析し、生徒にあった指導方法を研究したい。ICT機器を授業や課題の提出に活用することが進んでおり、実際に活用している。研修を通じて、教員のスキルアップを図りたい。</p> <p>・総合型選抜、学校推薦型選抜では一定の成果をあげたと考えている。一方で、</p>

計画が生徒の実態に合っていない」と考える教職員も増えている。個々の生徒の多様なニーズを踏まえながら、引き続き適切な情報提供や相談しやすい環境づくりに取り組み、進学に対する魅力を高めてもらいたい。

3 生徒指導について

生徒指導では、教職員アンケートにおいて高評価となっている。その手応えどおり、生徒アンケートでも前年度と比較して肯定的評価が増えており、効果的な実践がなされていると推察される。実際、気持ちよく挨拶する生徒もよく見受けられる。ただ、保護者からの評価は2019年度比で10～20%落ち込み、60%台のままである。また、自転車通学時におけるヘルメットの着用率が低下しているとの指摘もある。更なる改善・工夫を期待したい。

4 特別活動について

コロナ禍の中、生徒や教職員の努力もあり、藤樹祭をはじめ各種学校行事が工夫されて実施することができたのはよかった。学校行事の充実度に対して、生徒アンケート、保護者アンケート共に肯定的な評価が上昇している。

また、部活動については、カヌー部、経済調査部の活躍を見聞している。ますますの活躍を期待している。

4 教育環境について

教職員アンケートの結果から、施設・設備の点検が定期的実施され、整備されていることが伺える。施設・設備の改善は進んでいると思うが、生徒アンケート、保護者アンケート共に肯定的な評価が昨年度と比べてやや低下している。例えば、カーテンの整備に関する要望が見られた。今後とも、できる対策をして改善してほしい。

5 情報公開について

緊急時の情報提供の評価は大きく上昇している。教職員の来校者への対応についても、8割超の高評価となっている。ただ、保護者との連携、相談体制は、2019年度80%超であったものが、60%台に落ち込んでいるとともに、学校

難関国公立大学への進学については苦戦している。日々の授業を大切にすることはもちろんのこと、習熟度に応じた講座編成や模試、補習などを効果的に行うことによって、個々の生徒に応じたきめ細かな指導ができるように工夫したい。

・保護者の協力を得ながら、生徒の主体性を伸ばさせると同時に、生徒が自主的に規範意識を向上させることができるよう教職員がサポートしたい。

・交通委員会の活動や交通講話を充実させ、引き続き、ヘルメット着用の意義と交通ルールを遵守することの大切さを繰り返し指導したい。

・昨年度よりも従来に近い形で藤樹祭を行うことができた。コロナ禍ではあるが、生徒が生き生きと活動できる環境を整えると同時に、保護者や地域の方々にも気軽に楽しんでいただける学校行事になるよう、教職員がサポートしたい。

・日々の部活動において、適切な休養日を設定し、安全かつ健全な活動に取り組みたい。顧問は生徒の自主性を大切にしながらも、可能な限り生徒に寄り添い指導・監督することに心掛けたい。

・施設・設備の改善は、予算の制約もあり、すぐには対応しきれないところがある。できることから対応していきたい。カーテンについては、整備済みと考えているが再度確認したい。

・ホームページの更新を全教職員で行うようにしているが、現状は平均して2日に1回ある。ホームページの重要性について共通理解を深め、毎日更新できる

運営方針の周知についても同様に落ち込んでいる。生徒の安全管理（緊急時の対応）や教育目標の周知など、保護者との連携について、いま一度再点検・工夫してほしい。情報の発信については、何件か意見が出ている。緊急時には常に最善の対応ができるよう、検討してほしい。

6 特色ある学校づくりについて

生徒アンケートでは「学校生活」、とりわけ「本校の特色」において、また、保護者アンケートでは「特色ある学校づくり」において、いずれも肯定的評価が8割を超えている。学校満足度を高める学校づくりを推進する上で、良好な状態にあるとともに、生徒や保護者が考える学校生活の満足度が高いことの表れだと考えられる。地域の学校として大洲市などと連携しながら、「大洲高校の特色」の中味を具体的に精査していただきたい。

7 学校経営に関して

教職員アンケートの「学校経営」では、過去、管理職交代の初年度は評価が低くなりがちだったのに対して、肯定的評価が多くなっている。教職員アンケートでは、「校務分掌の構成」において、評価が昨年度と比べて約20%上昇している。今後とも負担の分散など、先生方の協働を進めてもらいたい。また、「教育目標」について、全教職員が「実状や実態に合っている」と捉えている。「保護者に十分に伝わっている」と感じる保護者も上昇しており、好ましい傾向と言える。なお、教職員アンケートでは「職場環境」において改善を求める声もある。今以上の改善策の在り方を検討していただきたい。

8 その他

近年、小学校や中学校で不登校若しくは不登校傾向の生徒が増えている。高校でも対応をお願いしたい。

商業科生徒の資格や技能の取得は、進学するにしても社会に出るにしても、かなり有効なものとなるので、更なる高みを目指してもらいたい。

ようにしたい。

- ・緊急時の情報発信については、ホームページを活用するとともに、マチコミメールを併用した連絡体制を構築している。加入率の向上により、確実性を高めたい。

- ・今年度スクールミッションとスクールポリシーを策定し、ホームページ上でも公開している。生徒、保護者、地域の意見を踏まえながら、本校の特色に応じたよりよいものにしていきたい。

- ・「総合的な探究の時間」、「課題研究」を通して、地域の課題の解決に向けた取組を行っている。更に行政や関係団体と連携し、地域に貢献できる人材育成に努めたい。

- ・校務分掌については、教職員個々の希望や事情を踏まえ、適材適所になるようにしていきたい。

- ・職場環境にはハードとソフトの両面を検討していく必要がある。ハード面については、衛生委員会などを活用して教職員の意見を吸い上げ、できることから改善を図りたい。ソフト面については、教職員間の挨拶の励行、会話の促進などを管理職が呼び掛け、良好な人間関係づくりに努めたい。

- ・各学年不登校傾向の生徒がおり、対応に苦慮している。本校はスクールライフアドバイザーが配置されているので、保護者も含めて気軽に相談できる雰囲気づくりに努めるとともに、関係機関とも連携を図りながら対処したい。

- ・今年度は残念ながら、全商検定試験全科目1級合格者が出なかった。来年度は実現できるよう指導に努めたい。